**吹奏楽指導におけるハラスメント**

愛知県吹奏楽連盟

１．ハラスメントとは

（１）ハラスメントの種類

「〇〇ハラスメント」という言葉が最近よく聞かれるようになりました。ハラスメントとは、他の人に対して肉体的・精神的な苦痛や不快感などを与え、相手の人権や尊厳を行為を指し、簡単な言葉を使えば「嫌がらせ」や「いじめ」に当たります。代表的なものをあげると

①**セクシャル・ハラスメント**（セクハラ、性的いやがらせ）でしょう。セクハラには、2つの形があります。

◎「**対価型セクハラ**」：職場や学校での立場や上下関係を利用して下位にある者に対して何らかの

　言動を強要する。（例：女性だけを選んで来客時にお茶くみをさせる）

◎「**環境型セクハラ**」：受け入れがたい性的な言動を繰り返す（例：胸が大きいなどの性的な発言をする。しつこくデートに誘う）

②**パワーハラスメント**：同じ職場で働く者に対し職務上の地位や役職などの優位性を背景に、適正な業務の範囲を超えて精神的・身体的苦痛を与えるハラスメント

（例：ちょっとしたミスに対して「できないやつ」「早く辞めろ」などの暴言を吐く、過大な要求を出してできないと降格処分・叱責など行う）、

③その他のハラスメント

◎**アルコールハラスメント**：飲酒を強要するなどお酒にまつわるハラスメント

◎**スメルハラスメント**：においによって他人を不快な気持ちにさせるハラスメント口臭や体臭が主だが香水も当てはまる。

（２）吹奏楽指導者におけるハラスメント

吹奏楽指導は、指導する側に熱が入ってしまい、知らず知らずのうちに加害者になっていることもあります。だからと言って、ハラスメントは決って許されることではありません。加害者の意図にかかわらず、被害者が苦痛を感じたら、それは「ハラスメント」と呼ばれるのです。

指導者が、役割上の地位や技術レベル、人間関係などさまざまな優位性を背景に、生徒に精神的・身体的苦痛を与えることは、ハラスメントに当たります。最悪の場合、対象者らの学校環境を悪化させることもあります。

10年ほど前から、学校における吹奏楽指導者が行うハラスメントが問題視されるようになってきました。これは、吹奏楽指導における体罰を苦に生徒が自ら命を絶ってしまうという事件が実際に起きてしまったからです。しかし、世間でセクハラに対する問題意識が高まっているにもかかわらず、依然として不適切な吹奏楽指導が横行し、未だに日本各地で、指導者の体罰や精神的攻撃が原因と思われる痛ましい事件が、いくつも起こっているのです。

２．ハラスメントの実態

（１）吹奏楽指導者によるハラスメント

吹奏楽指導者によるハラスメントは、①体罰（物理的ハラスメント）、②ひいきや罵倒など（精神的ハラスメント）、③不適切な活動内容の設定の３つに分けることができます。

①体罰（物理的ハラスメント）

物理的ハラスメントとは、いわゆる体罰のことです。殴る，蹴る、頭をこづく、頬を叩くなどに加え、直接人間を害するわけではない椅子を蹴る、靴を壁に投げるなどの行為もこれに該当します。

②ひいきや罵倒など（精神的ハラスメント）

精神的ハラスメントとは、相手の人権や尊厳を冒瀆するような発言や地震・自尊心を損なう発言を生徒に言ったり、無視したり、特定の生徒だけを褒めたりする（ひいき）行為です。過剰な叱責や不必要な大声、「やめちまえ」などの放棄的な言葉もこれに入ります。

※　（１）（２）もターゲットになった生徒だけでなく、周りの生徒たちにも悪影響を及ぼし、後の人格形成にも大きく影を落とすことになりますので、絶対に行ってはなりません。

冗談でも「へたくそ」「使えない」などの暴言を吐くことや頭を丸めることを強制するようなこともハラスメントに該当します。

③不適切な活動内容の設定

不適切な活動内容の設定とは、子供たちの発育段階を考慮しない、過剰な量の練習の強要（体調を崩すほどの長時間の拘束、特定の練習の連続、罰として運動場を走らせるなども含む）、不適切な条件での練習（炎天下での練習、休憩をとらせないなど）のことです。

吹奏楽部の毎日の放課後の活動に加え、土・日曜日も８時間以上拘束しての練習もハラスメントに当たります。物理的ハラスメント・精神的ハラスメントについての理解は近年進んできましたが、この3種類目のハラスメントに対する理解はいまだに乏しいようです。

学生時代には勉強や将来設計も大切です。部活動の拘束時間が長すぎて、学生の本分である勉学に集中する時間や将来について考える時間がなかったり、友達との交流がやりにくくなったりすることも問題です。技術向上のためにはある程度の練習は必要ですが、学業や交友関係への支障を引き起こすほどの過度な練習量は避けなければならないことを肝に銘じておきましょう。

（２）指導者以外によるハラスメント

吹奏楽活動におけるハラスメントは、指導者だけが行うとは限りません。他の生徒たち（いじめ）、保護者（虐待）先輩や保護者集団もまたハラスメントの加害者にあり得ます。例えば、クラブ活動内で技術の劣るメンバーを叱責したり、見下したりする行為もまたハラスメントに当たります。

さらに、指導者によるハラスメントと部員たちなどによるハラスメントは、多くの場合、連動します。学級を中心としたいじめの発生率にリーダーである教師の指導スタイルが大きく影響するように、指導者の言動がさまざまな形でクラブ員たちやその保護者たちに影響してクラブ内の雰囲気をつくっていくのです。そして、クラブ員は、なかなか指導者のやり方に異を唱えられないので、誰からも意見が出なければ、指導方針に賛同していると考えた指導者がますますそのやり方を強めるという悪循環となります。

３．ハラスメントが吹奏楽活動運営・指導・生徒の心身に与える影響

ハラスメントを受けることにより意見が言えないなど行動が萎縮的になり、指示を待つ消極的な態度が形成されることがあります。また、ある特定な活動にある時期まで熱心に取り組んでいたのに何かのきっかけで意欲が消失してしまう「バーンハウト」（燃え尽き症候群）につながることもあります。他にも、人目を気にしやすいといった対人不安もハラスメントによって引き起こされるマイナス要因の一つです。

このように、ハラスメントを受けた生徒は、その活動に対する意欲のみならず、様々なことに対する積極性や自己肯定感を失ってしまう可能性があります。

指導者からのハラスメントは、部員同士のいじめにつながりやすいことが確認されています。ミスした生徒に対する指導者の否定的な態度が、「いじめ」を容認しているとも捉えられてしまうからだと考えられます。部活動における嫌な体験が不登校につながることも分かっていますので慎重な対応が必要です。

吹奏楽活動は、本来生徒の健全な育成のために行われるべきものですが、これでは全く逆効果です。だからこそ、ハラスメントが生徒に与える影響を常に意識して、指導に当たることが望まれます。

4．吹奏楽指導でのハラスメント発生要因

（１）勝利至上主義

指導者がハラスメントを行ってしまう最大の原因は、「勝利至上主義」であると考えます。勝つことを求めすぎるあまり、他の大事なことを疎かにしたり、ないがしろにしたりしてしまうことです。レベルが高い部ほど、ハラスメントが多くなる傾向にありますが、これは「強い」吹奏楽活動ほど勝利が期待され、期待に沿うために頑張るからでしょう。よりよい結果を目指すあまり、指導者が勝利至上主義的な偏った指導を行ったり、過度な練習を強いたりしてその中で罵声や体罰による指導や上手な生徒の優遇などのハラスメントが起こりやすくなるのです。

また、練習態度が怠慢であったり、部のルールを破ったりする生徒に対して制裁行為を行うことがあることも耳にします。つまり、体罰根絶がうまく進まない理由の一つに「より良い結果を出すためには、厳しい指導が必要」という信念を指導者だけでなく、生徒や保護者ももっていることがあるのでしょう。

指導者が技量の低い生徒やミスをした生徒に対して過度に叱責したり冷遇したりすることで技量が高い生徒に優れているという価値観が育ち、部内格差の風土を生むことがあります。

また、指導者としては、勝つことで指導者としての自分の実績を残したいという人もいるでしょう。自分が指導した生徒たちに愛着があり、とにかく「勝たせてやりたい」と感じる指導者もいます。これは、自然な気持ちであると思います。けれども、それが本当に生徒たちに必要な指導でしょうか。

（２）努力信仰

ハラスメント発生要因の２つ目が「努力信仰」です。つまり、努力すれば何でも叶うと信じることです。しかし、実際には「練習しなければできない」は正しいですが、それは「たくさん練習したらできるようになる」と同じではないのです。だから、「できていない事実」を見て、努力していないからだと考えるのは短絡的な考えです。これまでは技能を習得する場面では、量をこなすことがよいとされる風潮がありました。けれども、こうした考えは幻想で、練習は多ければ多いほど良いわけではないことは科学的に証明されています。

（３）吹奏楽活動の特質

ハラスメント発生要因の３つ目は、吹奏楽活動の特質にあると思います。吹奏楽部は、集団で一つの音楽を創り上げる部です。大会で好成績を上げるには指導者が集団全体をコントロールする必要性が高く、ハラスメントはその手段として即効性があり、かつ安易に実行できるからだというのが一つの理由です。また、部内で目指すべき目標が分れ、その結果、ハラスメントが起こることもあります。

（４）指導者のストレス

最後に、指導者本人のストレスや生活満足度も、ハラスメント発生に大きく関係します。指導者が何らかのストレスを抱えていたり、生活に満足できていなかったりすると、それが指導の態度にも現れてしまうからです。人間ですから、ある程度感情が行動に現れてしますのは仕方のないものです。しかし、それが指導に大きく影響し、ハラスメントにつながるのです。一種の「憂さ晴らし」あるいは「自己満足」が起こっているような状況は、指導者として正しい姿とはいえません。自分自身の心身の調子をしっかり整えるように心がけましょう。

５．吹奏楽指導でのハラスメント予防

（１）勝利至上主義から人間性形成への転換

指導者として重要なことは、例外を作らないように努めることです。「うちのクラブは、全国大会に出場しているから、練習時間が長くても、厳しくても当たり前のことだ」というような例外を一つ作ると、それは「強いクラブは練習が長く、厳しいものだ」ということをメッセージとして発信することになります。ハラスメントの予防には、勝利至上主義から人間性形成という価値観を転換していくことが大切なのです。

（２）クラブ員主体の活動運営へ

クラブ員自身が主体的に考え、クラブ員同士、そして指導者とクラブ員が協議して練習方法などを考えていくことが大切となります。

指導者としてはミーティングを開いたり、保護者への活動だよりを作成したりとさまざまなチャンネルを使って、クラブ員が主体的・対話的に活動に参加している様子、その効果を伝えていきましょう。

（２）研修による最新の知識の獲得

ハラスメントの要因として、指導者自身の過去の部活動経験が影響していることが明らかになっています。また、部活動という集団の規律が求められるところに、発達障害の傾向があるクラブ員や発達協調性運動障害の不器用さを持つクラブ員がいると、「努力不足」や「ふざけている」と勘違いされ、過度の指導のターゲットになってしまうことがあります。このことは裏を返すと、指導者側もクラブ員との関係の持ち方や指導方法に戸惑いを感じているといえます。

そこで、より多様なクラブ員を理解するためにも、コーチング、合理的配慮、指導方法などの最新の知見を学べる研修などを定期的に受講することが望ましいでしょう。本来ならば、研修が公的に制度化されていることが理想ですが、もしまだ研修体制が整備されていないのであれば、指導者自身から積極的に興味深い研修を見つけて参加してみてください。知識は武器となり、不必要なハラスメント的対応の防波堤となってくれます。

（４）指導者やクラブ員の自己理解

ハラスメントの発生要因として、指導者自身の偏った信念や、これまでに指導者自身が受けてきた指導内容、指導者自身の性格などが関連することは前述した通りです。そこで、まず指導者自身が自分の特徴を自己理解しておくことがハラスメント防止の第一歩となります。

指導者が自身の性格の特徴を知っておくことで、自己理解につながり、自分の感情とうまく付き合う方法を学んでいくことができます。自分がどのような価値傾向にあるのか、どのような性格であるのか、どのようなことがストレス要因となっているのかを客観的に理解しておくとよいでしょう。

（５）指導者やクラブ員へのサポート

吹奏楽指導を行う中で、指導の結果がなかなか出なかったり、クラブ員との関係がうまくいかなかったり、活動と他の仕事とのバランスが難しかったりすることがあります。困った時に相談できる体制、「相談してもよい」という雰囲気を作っていくことは、指導者によるハラスメント、クラブ員同士のハラスメント、親子間のハラスメントの予防に役立っています。指導者の皆さんも困ったらぜひ誰かに「相談」してみてください。「相談」することは問題解決の第一歩となります。

最後に、指導者やクラブ員への最大のサポート方法をお伝えします。それは、吹奏楽活動に関わっている全ての人が「相手のことを認め合う」を実践することです。お互いに相手を認め合うことで、自尊感情や自己効力感が生まれてきます。自尊心や自己効力感が高い人は、ハラスメントを起こしにくいのです。自尊心や自己効力感が低いからこそ、他者をコントロールし自己の優越感を高めようとするのです。指導者からのサポートはクラブ員間のハラスメントを軽減します。

自尊心や自己効力感の高めるためにも、指導者もクラブ員も含めたお互いの良さを伝えあう吹奏楽活動ノートの活用や肯定的なコメントを伝え合うミーティングの工夫など、人間関係のポジティブな側面を強化する工夫を行ってみてください。